

## たんぽぽ

北野小学校長 丹羽 郁人

小学校二年生の国語の教科書にはひらやまかずこさんが文と絵をかいた「たんぽぽ」という説明的な文章がある。黄色く可憐な花を咲かせるたんぽぽは、仲間を増やすための秘密があるというのだ。

たんぽぽの花は朝に開いて夕方に閉じる。咲き終わると地面に寝て、綿毛ができる。また立ち上がる。いちばん身近な野の花なのに、たんぽぽは秘密をたくさん隠しもっているのだ。

工藤直子さんの詩に「ねがいごと」という詩がある。たんぽぽになりきって書いた詩だ。

ねがいごと

たんぽぽはるか

あいたくて

あいたくて

あいたくて

あいたくて

・

きょうも

わたげを

とばします



幼いころ、よく綿毛を吹いて飛ばした。綿毛は風に乗って、どこまでも飛んでいくような気がした。

一九八七年（昭和六十二年）、当時高校の国語教師である俵万智さんが歌集を出版した。出版されるや二八〇万部のベストセラーとなった、歌集「サラダ記念日」である。

二〇一一年（平成二十三年）三月十一日、東北大地震。震災の直後、俵万智さんは、小学校一年生の息子の腕をひいて、住んでいた仙台から、石垣島へと移り住んだ。

石垣島に降り立った時、息子と共に大地に咲くたんぽぽを見た。俵万智さんのその時の短歌があまりにも切ない。

たんぽぽの 綿毛を吹いて 見せてやる

いつかおまえも 飛んでいくから

俵万智

母の決意。母の覚悟。

だからこそ、彼らには「生きる力」をつけさせたいのだ。

大地にどつしりと根を張り、胸を張ってたたずむことのできるように……。

